

No. 19

平成19年6月発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70

静岡県総合社会福祉会館内

TEL 054-653-2311 FAX 054-653-2312

E-mail : sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

# しづ老施協

## 巻頭言

## ディ協との一元化の意義



静岡県老人福祉施設協議会

会長 仲 亀 透

す。

時あたかも「二〇〇七年問題」がやつてきました。昭和二十二年から二十四年の三年間に生まれた「団塊の世代」約八百万人の人々が今年から一斉に満六十歳、つまり定年退職の年齢に到達します。

今でも難しくなっている職員確保の問題が、一層顕在化してくるでしょうし、八年後にはこれらの人々が全て六十五歳、つまり一号被保険者となる訳で、四人に一人が高齢者という超高齢社会の中で、要介護者の急増が懸念されます。

しかし、このような社会的な問題は、一つの施設では解決できません。介護保険事業者が結集し、国に対し施設、利用者、その家族等の実情、要望をさらに強く訴えかけていく必要があると思います。

私は、ここにも老施協の大きな存在意義があると信じております。

会員同士の情報交換、協同での資

質向上事業等はもとより大切ですが、まずは安定した経営の確保のため、老施協の役割はますます重要な立場です。

このようないい社会環境を背景

にして、この度「老人福祉施設協議会」と「ディサービスセンター連絡

会」の二つの組織が合併して「老施協

は、誠に喜びに堪えません。

老施協は社会福祉事業法（現、社会福祉法）の施行に伴い、昭和二十六年に設立され、会員数は三百十七。ディ協は、平成十年三月に設立され、会員数は百五十一。

入所と在宅の違いはあれど、目的は同じです。

一元化の実現を会長として大変心強く思い、かつ、新会員百五十人の吹き込む新風を大いに期待している次第です。

これからもますます会の結束を強め、柳沢厚生労働大臣言うところの「国民一人一人が安心して暮らせる社会」実現のため、全力で取り組んでいく所存であります。

なお、私義ながら、四月二十六日に赤坂御苑における園遊会にお招きを受け、行って参りました。

また、五月十一日に皇居において叙勲を受けましたことを、この場をお借りして報告させていただきま

す。

これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と深く感謝し、今後とも変わらぬ関係者各位のご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

初夏の候、会員皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成十九年度事業がスタートしましたが、「景気上昇」との政  
府発表とは無縁のように、国の予算  
は相変わらずの緊縮型です。

「骨太の方針」によれば、五年間  
で一兆一千億円の縮減を行うとのこ  
とで、我々介護事業者の環境はます  
ます厳しくなるものと予想されま

す。

老施協は社会福祉事業法（現、社会福祉法）の施行に伴い、昭和二十六年に設立され、会員数は三百十七。ディ協は、平成十年三月に設立され、会員数は百五十一。

入所と在宅の違いはあれど、目的は同じです。

一元化の実現を会長として大変心強く思い、かつ、新会員百五十人の吹き込む新風を大いに期待している次第です。

これからもますます会の結束を強め、柳沢厚生労働大臣言うところの「国民一人一人が安心して暮らせる社会」実現のため、全力で取り組んでいく所存であります。

なお、私義ながら、四月二十六日に赤坂御苑における園遊会にお招きを受け、行って参りました。

また、五月十一日に皇居において叙勲を受けましたことを、この場をお借りして報告させていただきま

す。

これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と深く感謝し、今後とも変わらぬ関係者各位のご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

（特別養護老人ホーム  
「富士宮荘」施設長）

## ポスターセッション

平成十九年一月九日、グランシップにおいて、昨年につづき二回目となるポスターセッションが、四十二件の発表者と延べ二百五十名が参加して開催されました。発表者の感想等を紹介し、今後の開催に活かしていきたいと思います。

### 平成十八年度

#### 。ポスターセッション

特別養護老人ホーム「麻機園」

園長 秋山 通

今回のポスターセッションの発表内容は、日常業務の手法、改善方法、及び研究開発したこと、或いは他施設からの評価を期待してのもの等があり、一名から三名程度の発表者により分担して発表する施設や、また聴衆側にアドバイス役を配置して発表する施設など、発表方法も様々でしたが、見学者にしつかりアピールするよう立体的に作成されたポスターなど工夫が凝らされているものが多くありました。更に、一施設から複数ポスターの発表があるなど、どのポスターからもこのポスターセッションにかける施設全体の意気込みが発表者を通じてうかがえるものでした。特に、多くの特別養護老人ホームのポスターは、利用者や家族の二人ズに応えようと職員が一丸となつて取り組んだ様々な具体的な様子が表現され、サービスの品質向上を目指した

成果の一端を発表していました。

あちらこちらで熱のこもった発表が続き、発表を終了した参加者は、発表後の質問にも対応しながら次に発表されるポスターの聴衆になるなど、日常生活に、会場は熱気に包まれ、二回目とは思えない出来ばえのポスターに、福祉施設職員の皆様の隠れた能力や、実践の素晴らしさを見せ付けられた一日でした。

私は「お年寄りの介護」について、理念を基本とした知識や技術により適切に実践されることが重要であると思

います。しかしながら、私たちのうな施設の「介護の現場」で働く者だけが体験できる事実、教本やマニュアル本には票されない様々な状態への対応方法、また利用者個々に異なる状態へ当する多くの職員の試行錯誤の経験の具体的な介護の経験こそが最も重要なことであるとも思います。介護を担当する多くの職員の試行錯誤の経験の積み重ねは施設内に蓄積され、ルール化、マニュアル化されてはいるものの、多くのそれらはその施設固有の財産となります。次回開催時には更に多くの発表者、聴取者の参加を期待します。

工夫した点として、音楽を言葉で伝えるのは難しいので、写真を沢山使うことで音楽療法を知らない人にも様子や表情を見てもらい、少しでも伝わるようしました。会場に鈴、鈴ロープ、手作り楽器などを持つていて、実際に参加者に触って貰いました。発表中にもそれらを説明し、音を鳴らすことでも興味を引くことが出来ました。初めての試みとして、キーボードを持っていき、昼休みにミニ音楽療法を行いました。前もって伝えておかなかつたので参加してくれた方は少なかつたが、実際に音楽療法の雰囲気を少しでも感じてもらえたのではないかと思います。

や手法がなかなか他施設に普及せず、進展、普遍化しにくいのが実情ではないでしょうか。そこでポスターセッションのような機会を設けることにより、それぞれの施設が持っている介護技術や手法の財産を公開し、多くの施設をはじめとした介護の現場で実践し検証されることによって、介護サービス全体の品質が更に向上去していくものだと思います。

特別養護老人ホーム「福聚荘」  
久保野 愛  
中村真富果

## ポスターセッションに 参加して





発表中はあまり質問が出ませんでしたが、発表後に、鈴口一郎や個人評価基準表に興味を持つてもらいたい、多くの質問を受けることが出来ました。その際、他の施設の様子も聞くことが出来、お互いの情報を共有することが出来ました。

ポスターセッションという場に参加することで、自分自身の活動を見直すきっかけになり、新しい目標を明確にすることが出来ました。現在は、新たな取り組みとして手作り楽器を使用した活動を取り入れています。

今後も、音楽を通して利用者とコミュニケーションを取り、生活の活性化につなげていきたいと思っています。

百恵の郷に入職して一年目、ポスターセッションに初めて参加しました。静岡県内の老人福祉施設の関係者が一堂に集まるこのイベントを通して、日頃の業務の中ではまだ見えてきていたかったことの発見や、振り返りが出来ました。私は毎月、地域の方に向けてリーフレットを発行してきました。発信する情報の内容の充実はもちろんのこと、地域の方に如何に興味を持つてもらい、実生活で活用して頂けるかと言う事を考えて作成してきました。どんなに素晴らしい情報であつたとしても、対象者の目に触れなければ何の意味もありません。思わず手にとつて読みたくなる、話題にしたくなるリーフレット作りをいつも心がけて作成しています。

ポスターセッションでは、同じ規格条件が提示されていても人それぞれ違った表現の仕方があり、参加者が興味を示し注目を集める発表とはどんなものであるか、ということを考える場となりました。また、発表の場をいただけたことで、今までやってきたことの成果を実感することもでき、芝川町内に留まっていた活動内容が、県内の他施設へ働きかけることも出来たよう

## 新たな発見、振り返りができるポスターセッション

**特別養護老人ホーム「百恵の郷」  
磯部洋子**

に思いました。  
他の施設の発表を聞かせて頂き、日頃当たり前になつてている業務についても疑問を持つて積極的に改善するよう行動に移すこと、新しいことを取り入れてより良いサービスを提供していくことは、とても大切なことだと改めて感じました。

ポスターセッションでは、発表者と参加者の目線の高さが同じ中での発表であったので、より身近に聞きやすかつたように思いました。そして、もつと詳しく知りたい事をじっくり聞くことが出来良かったです。

このような場に参加させていただきましたが、今後の活動の励みになる交流を図ることができました。ありがとうございました。

当日は、展示場でパネルの大きさに驚き、持ってきたポスターが小さく見え少し不安になりましたが、他の発表者の方たちともそんなに変わらなかつたので安心できました。

発表が始まり、トップバッターでしたのでかなり緊張してしまい、声も小さく聞き取りにくかったです。それでもコーディネーターの先生に上手にまとめていただいたので、何とか発表を終えることが出来ました。初めての参加でしたので、発表 자체がいい勉強になったと思うのが率直な感想です。

昨年十月にポスターセッションへの参加が決まり、施設内のどの取り組みについて発表するか迷いました。日々、業務にてサービスの向上やユニット単位での個別ケアの推進、ユニットケアの実践については取り組んでいましたが、いざ発表となると取り組みましたが、いざ発表となると取り組みます。内容やその成果を表現する事に難しさを感じました。前年度参加出来なかったこともあり、他の参加者はどんな内容を発表するのか、自分たちは何を

すれば良いのか、と考える日々が続きました。そんな中で、事務、相談、看護、介護一回目のポスターセッションミーティングで発表内容の検討を行い、「感染症対策」「学習療法導入」等の候補を検討しました。

## ポスターセッションに 参加して

**介護老人福祉施設「みくらの里」  
生活相談員 木村信大**

他の発表も一通り見ていましたが、より実践的なケアの向上に取り組まれている内容が多く、すぐに持ち帰って実践できる事もあり、そういう発表の所に多く人が集まっていたように思います。その中で、質問に対し

も率直に答えていただき、かついつでも見学に来て下さいとお説いていた所もあり、交流の広がりにも大変良い機会になつたと思います。

今後も第三回、四回と続していくことで、各施設間、種別の隔てのない交流の場として実施していただきたいと思います。

老施協の準備委員の方達には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

## ボスター・セッショントーク

### 通して学んだこと

**特別養護老人ホーム「片岡杉の子園」**

**介護士 原科裕一**

ボスター・セッショントークに参加した事で、以前よりも施設の事を理解することができました。

会場内には様々な職種の方がおり、多くの質問をして頂く事により、自分たちでは気づかなかつた点に改めて気づくことができました。

この体験は、自分にとって非常に実りある経験になつたと思います。

今回の発表では、写真や文字を見やすくするために光沢紙を使用したり、挿絵を入れたりと、より聞き手が理解できるよう工夫しました。発表ではマイクを使用しないため、声の大きさやトーン、話すスピード等にも注意しました。

発表が終わつて感じたことは、会場は広いのですが、各々の施設の説明ス

ペースが狭く、会場がザワザワしているため、聞き手が聞くにくかったのではないかということです。そのためかも知れませんが、発表者としてもこの中で理解が得られるのかという不安から発表がしづらかったです。今後は、隣とのスペースを広く取ることが出来れば良いのではないかと感じました。

昨年見学者として参加させて頂き、その時にも感じたことですが、自分が見たい施設が何処にあるのか分からなければ良い施設が何処にあるのか分かるため、参加者はもちろんのこと、見学者の方にも分かりやすいよう、案内係りや案内図があると良いのではないかと思います。

このボスター・セッショントークを通じて感じたことは、自分が持つ思いや情熱を相手に伝えるためには、言葉に心を込める事や、身振り手振りなども含めた表現力が大事であると言う事です。この経験を活かし、今後のケアや職員の意識の向上に努めてまいりたいと思います。

**ボスター・セッショントークに  
参加して**

**特別養護老人ホーム「さやの家」**

**主任ケアワーカー 坂東豊実**

「語ろう拡げよう情報ネットワーク二〇〇七」と題して、情報交換と交流を目的としたボスター・セッショントーク、話すスピード等にも注意しました。

ボスター・セッショントークって何?と、今は広いのですが、各々の施設の説明ス

にすればよいのか、大変悩みました。発表するテーマごとに各ブースに分かれ、それぞれ持ち時間を利用し、発表と質疑応答をする形式でした。興味を持った方々が聞いてくれるため、この雰囲気はとても活気のあるものでした。さあ私は何を発表しよう?まず最初に頭に浮かんだのは、利用者さんのいつもと違った笑顔を見せてくれる

スポーツレクリエーション時の表情でした。月一回ではありますが、本部から来るスポーツレクリエーション指導の方々と一緒に過ごす時のことでもよい表情です。これがきっかけとなり、ワーカーとのコミュニケーションも更に深まつていきます。これを発表しよう。

さっそく、趣旨を説明して職場の人達と資料づくりです。一連の流れをまとめてなんとか規定の用紙に納めることが出来ました。皆さんにこの思いが伝わるかな?多少の不安がありました。当日は、各施設の方々が夫々の思いをいろいろな角度から発表していました。どの表情も真剣そのものでした。聞き手の方たちも真剣に受け止め質問等をし、とても活気のある時間が過ぎていきました。閉会式の時、委員長が前回にも増して更に多くの施設の参加があり、内容も充実しているとお話をされました。どの発表もそうですが、利用者のより良いケアを目指すという目的があるため、発表者も聞き手の方たちも一体感があつたように思います。

## ボスター・セッショントークに 参加して

**特別養護老人ホーム  
「ながいづみホーム」**

**杉山好文**

当施設からは「フットケア」「口腔ケア」の発表と十名の職員が参加しました。研修報告で出た感想を載せたいと思います。

特に印象的だったのが、音楽療法を取り入れた発表でした。音楽療法の資格を持つ方が中心になつて行っていました。既に当施設で取り入れてはいましたが、資格が無くても十分出来る事などと再確認できました。ながいづみホームでも再び音楽療法に取り組み始めるサポートが出来ればと思います。ケアハウスでは介護予防、特養ではユニットごとのパーソナルケアの取り組みの発表が多く、とても参考になりました。

また、学習療法や排泄に関する事で、既に当施設で取り入れている事もありましたが、若干違いもあり、それに対しての話し合いの場が設けられたのは良かったと思います。

発表に関してですが、聞き取りづらいところが多くあり、発表の仕方をもう少し変えていたらさらに良いものになると思いました。準備期間が短い

の協力によって出来た事をとても感謝しています。

及び協力職員で作り上げ、当日に臨むことができ感謝に耐えません。テーマ内容に関するパンフレットを作成すれば、聴いている方にももつと理解していただけたのではと反省しました。また、施設のパンフレット配布と、吸引くるリーナのデモは粘着度のある水分ゼリーを持参し行えば良かったと思いました。

今回のながいざみホームのテーマは、どの施設においても困難な取り組みの様子で、質問者やボスターを写真に収める方が多かったです。最も大きな課題は、職員間での意識の定着、温度差の是正だと思います。今後も法人、施設内での多職種、多部署や各委員会での研修や連携の大切さを改めて感じました。他施設の介護に携わる方々と交流ができ、大変有意義な研修でした。

説明後の質疑応答にも活気が見られました。それは、現在自分たちの施設で実際に進行っている各種サービスを、見直したり再確認をする場、或いは、情報提供を得る場として参加されているからだと思います。

また、発表者の皆さんに共通して言えることは、利用者様に対してどうあるべきかという問題意識を持つ中で、新しい試みに挑む姿勢にプロとしての意識の高さを感じました。

最後に、昨年四月の介護保険法の改正に伴い「介護サービス情報の公表」制度が始まり、また「福祉サービス第三者評価」により、利用者やその家族等が施設を選ぶ時代へと入ってきました。そこで、様々な情報を得る場としての今回のポスターセッションの開催は、大変意味のある研修の場であったと思います。



特別養護老人ホーム  
**湖西白萩**  
法人名 社会福祉法人  
「慈悲庵」  
開設日 平成19年4月1日  
所在地 湖西市太田450-1  
入所定員 100名  
デイサービス 15名



## 新加 入施設紹介

平成十九年六月一日現在



介護老人福祉施設  
**梅香の里**  
法人名 社会福祉法人  
「八生会」  
開設日 平成19年3月28日  
所在地 磐田市下野部  
363-1  
入所定員 50名

## 施設名称の由来と想い

特別養護老人ホームさやの家

施設長 河合壽美

当施設は、掛川市の西側に位置し、掛川市役所から車で数分という大変便利な所にあります。掛川市立総合病院へも車で十分位で行けます。

この場所に、平成八年四月一日に入所五十床、ショートステイ二十床、他にデイサービス、在宅介護支援センターという在宅サービス事業を併設して開設しました。

その後、三回の増築をしております。一回目は平成十三年四月に入所二十床、ショートステイ四床、二回目は平成十四年十二月に入所五十床（ユニット型）、三回目は平成十八年四月にショートステイ二十床（ユニット型）を増築してきました。

現在の定員は入所百二十床、ショートステイ四十四床という、大変大きな施設になりました。そして、土地に恵まれたため、全部平屋の建物です。窓の外を見ると土や植物がある風景が見え、大変環境にも恵まれています。

さて、「さやの家」という名称ですが、その昔、万葉の時代に現在の施設が建っている掛川市は佐野郡（さやのこほり）と呼ばれていたという、万葉集の歌の詠み人があります。

「父母が殿の後方の百代草 百代いで  
ませわが来るまで」  
(詠み人)

## ● 我が施設のユーツ行事

### 『花火大会』

ケアハウス ハーモニーおくの

くたまべのたりくに』という事で「さや」とつけて、「家」は前榛村掛川市長の「老人ホームに入所するということではなく、二つ目の家ができるということである。」という教えから「家」とつけて、「さやの家」という名称になりました。

このような大変歴史のある地名と、施設は「家」であるという考え方から付けられた名称に恥じないような中味を持った施設作りに、今後も取り組んでいきたいと思います。

毎年八月の下旬、夏の終わりを告げる花火大会が中庭で開催されます。打ち上げ花火が始まるまでは、各自手持ち花火に遠い昔を懐かしみ、皆童心のような笑顔。そして打ち上げ花火が始まると「玉や！」の掛け声と共に30連発50連発の花火が約30分間夜空を彩り、目前ではナイアガラ花火が圧巻です。

今年も「玉や！」の掛け声にのせられ!? 火の粉に負けず頑張る職員です・・・!!



### ケアハウスカリタスみわ

当ケアハウスは、一般型50名、特定施設利用30名で構成しており、行事はそれぞれで行ったり、合同で実施などです。コンセプトは、「社会の施設を活用し、持っている力を社会に還元しつつ、今の力を継続、向上する」をめざしています。



## 防犯対策について

養護老人ホーム 光音寮

施設長 木全哲之

昨年十一月に県西部の老人福祉施設において盗難事件が多発しました。当施設も被害に遭い、そのことで得た教訓を皆様の参考になればと思いご報告します。

侵入したのは、おそらく施設狙いの中国系窃盗団で、侵入手口や被害状況は他の施設もほぼ同様でした。

事務室の窓ガラスをバーナー等で熱し、縦十ミリ、横二ミリほどの傷穴を開け、そこから特殊な道具で開錠しています。現金目的の犯行で、金庫を倒してバールの様な物でこじ開けています。他にノートパソコンも盗難に遭いました。

### 【不幸中の幸い】

現金のみを分別して盗んでおり、預り帳などの書類がすべて残っており、被害額が明確に証明できました。二つある金庫の内、金品の入っていない旧金庫のみ開けられていきました。個人情報の流出が役・職員のみでした。加入している損害保険から一部保証金がおりました。ふたつ隣で就寝している宿直職員が気づかなかつた為、傷害事件は起きました。

### 【対策】

職員・利用者の不安解消と安全確保の為、警備会社と契約し、事務室に侵

入センサーと通報システムを導入しました。そして、宿直職員には物音がしても駆けつけないで、警備会社に通報するよう指導しました。（相手は複数であるため、立ち向かうのは無謀です。）

侵入を完全に防ぐことは困難です。施設が通りに面している、外灯がある、防犯フィルムを貼っているからといつた過信は持たないほうがよろしいです。警備会社のステッカー貼付や監視カメラ設置等の、ひと目で防犯対策を講じて分かれるアピールが効果的です。

侵入されても損害を最小限に留める工夫が重要です。重くて頑丈な金庫だからといつた過信はやめて下さい。金庫は、火には強いがバールには弱いとのことで、多額の現金を置かない事をお勧めします。その為、事務室内にダミー金庫を一つ、他の部屋に新たに金庫を設置し、通帳・印鑑・現金を分散しました。そして、利用者預り金を一切止め、施設立て替金のみとしました。個人情報が流出すると、施設への不信問題が生じます。マスコミに報じられると大きなイメージダウンとなります。お詫びの挨拶も大変です。個人情報の流出を防ぐため、ノートパソコン

は終業後別の部屋にしまっています。デスクトップパソコンをしまう事は困難なため、ノートパソコンに交換しました。盗難金が戻ってくる可能性は低いと思います。損害保険は、建物にも幾らか掛けておけば、一部補填される可能

## リレーコラム

### 一冊の本

特別養護老人ホーム「御殿場十字の園」

施設長 上野貢一

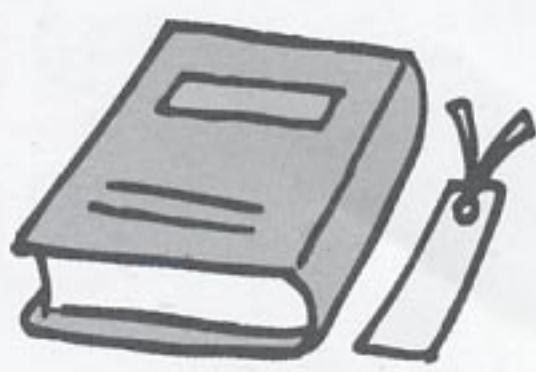
最近読んだ本の中から一冊の本を紹介します。それは、内橋克人著「悪夢のサイクル」という本です。

三十年前、ボーヴォワールの「老い」という本がゼミのテキストでした。前文で、人生の最後が廃品でしかない文明は良い文明と言えるだろうかと、問い合わせがなされました。

当施設の運営目標の一つに「安心して心豊かな暮らし」の支援をあげていますが、バブルが弾けたあたりから国

の福祉施策も変わってきたように思います。今、社会福祉法人改革が叫ばれる中、福祉の世界も規制緩和がなされています。競争原理が入ってきました。「悪夢のサイクル」は、一人のユダヤ人が新自由経済を提唱しアメリカから日本をはじめ、全世界に広がっています。

性があります。（既に加入の方は契約内容をご確認ください）完全な防犯対策を求めるに莫大な費用が必要です。ポイントを絞り、少ない費用で質の高い防犯対策を講じる事をお勧めするとともに、皆様のご無事を祈願いたします。



# 活動報告

査を実施しました。

## 【特養部会】

★ 総会 十九年三月二十七日、もくせい会館において、デイサービスセンター連絡協議会との組織一元化、十九年度事業計画並びに収支予算、全国老施協代議員の選出等について協議しました。

★ 総会 十九年五月二十一日、もくせい会館において、十八年度事業報告並びに収支決算、十九年度事業計画並びに収支予算について審議しました。

★ 理事会 十九年四月十八日、静岡市民文化会館において、十八年度事業報告並びに収支決算、十九年度事業計画並びに収支予算、定例総会等について協議しました。

★ 総会 十九年五月二十一日、もくせい会館において、十八年度事業報告並びに収支決算について審議しました。

★ 理事会 十九年三月五日、静岡商工会議所会館において、十九年度事業計画並びに収支予算、デイサービスセンター連絡協議会との組織一元化、全国老施協代議員の選出等について協議しました。

★ 監事會 十九年四月十八日、静岡市民文化会館において、十八年度事業報告並びに収支決算について監査を実施しました。

## 【在宅事業部会】

★ 理事会 十九年三月二十七日、もくせい会館において、定例総会の運営について、全国老施協代議員の選出等について協議しました。

★ 設立準備委員会 十九年四月十六日、ペガサートにおいて開催し、正副委員長の選出、会則案の検討などを进行了。

★ 理事会 十九年四月二十四日、静岡市民文化会館において、十八年度事業報告並びに収支決算、五月定例総会等について協議しました。

★ 監事會 十九年四月二十四日、静岡市民文化会館において、十八年度事業報告並びに収支決算について監査を実施しました。

## 【養護部会】

★ 理事会 十九年五月二十七日、静岡市民文化会館において、十八年度事業報告並びに収支決算について監査を実施しました。

★ 十九年五月二十七日、クーポール会館において施設長研修会を開催し、十九年度の各施設の事業計画等について話し合いました。



編集後記

★ 十九年五月二十一日、クーポール会館において総会を開催し、十八年度事業報告並びに収支決算、十九年度事業計画並びに収支予算について審議しました。

## 【21世紀委員会】

★ 第一回目を十九年四月二十五日にペガサートにおいて、第二回目を五月二十五日に静岡市民文化会館で開催し、平成十九年度事業計画について協議しました。

## 【研修委員会】

★ 十九年五月十一日、あざれあにおいて開催し、平成十九年度事業計画について協議しました。

## 【広報委員会】

★ 十九年五月二十五日、静岡市民文化会館において開催し、平成十九年度事業計画について協議しました。

## 【カントリーミーティング実行委員会】

★ 十九年五月二十三日、産業経済会館において開催し、実施計画等について協議しました。

● 県施協の組織編成が行われ、「しづ老施協」の編集も広報委員会が受け持つことになりました。新鮮な発想とアイデア豊富な若い人材も加わり、内容もより充実した情報発信紙となることと思います。皆様には原稿依頼でお世話になりますが、ご協力をよろしくお願ひします。（祐美）

（康）